

地政学ってなに?



現在の世界には、約200の国があります。

日本もそのひとつです。面積の大きな国、小さな国、周りを海に囲まれている国、海に面していない国、寒い国、暑い国など、それぞれに特徴があります。

国と国とは、貿易や文化などを通じてさまざまな関係があります。交通や通信の発達している現代では、遠くはなれている国とでも強いつながりを持つことができます。逆に近い国でも交流が少ないことや、場合によって

は対立が生まれることもあります。

国と国との関係を知ることは、「なぜ戦争がなくなるか」という問題を考える第一歩です。なぜなら、戦争はひとつの国だけでできるものではなく、必ず相手国があって起こるものだからです。戦争をしかけた国にもしかけられた国にも、その国の立場にもとづく事情や言い分があるのです。

世界の国と国の関係を、国際関係、あるいは国際政治などといいます。そのあり方には、各国の地理的な条件

が大きく影響しています。そのため、地理的な条件に照らして考えると、国際政治がわかりやすくなります。これを地政学といいます。つまり、地政学とは、「国際政治を各国の地理的条件をもとに研究する学問」なのです。

地理的条件とは、その国がどこにあるのか、海に面しているのか、どのような地形が多いのか、寒いのか暑いのか、降水量が多いのか、少ないのかなどをさします。

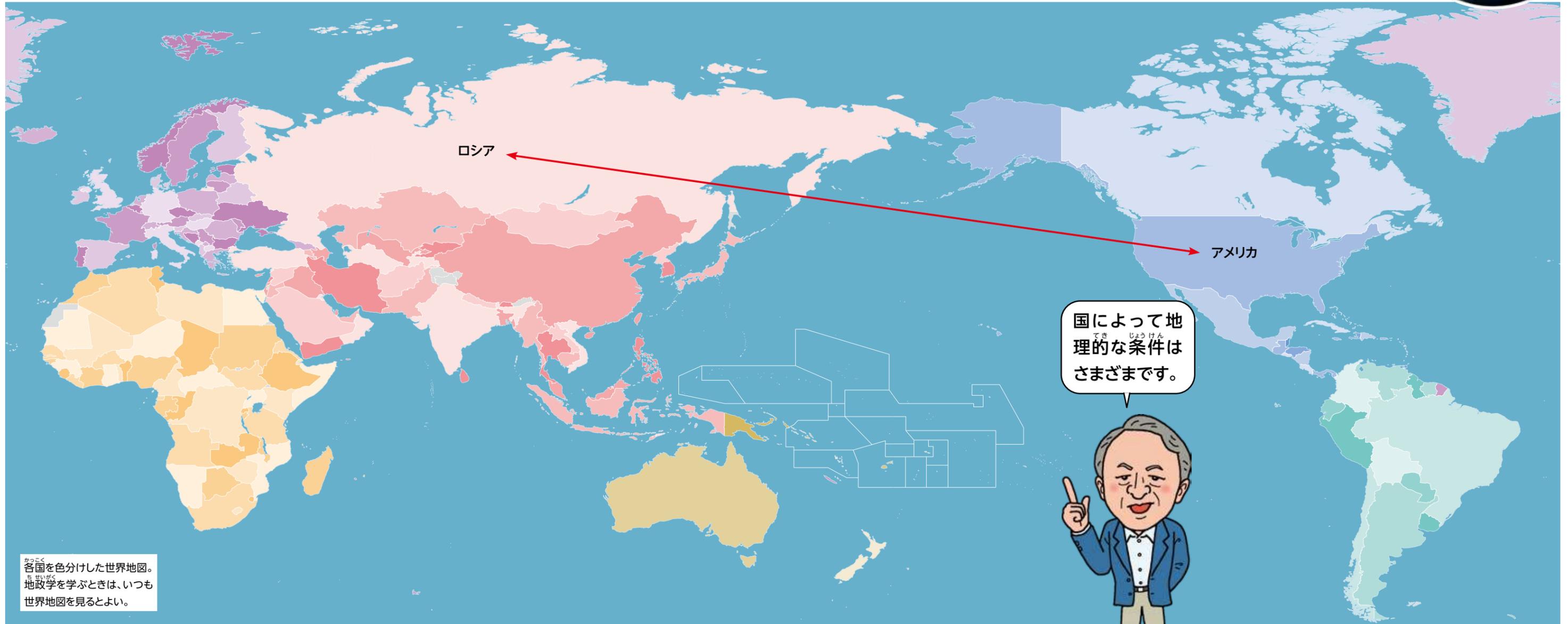
これから、具体的に地政学について考えていきましょう。

地図と地球儀

立体的な地球を平面の地図で表すと、きよりや面積にひずみが出ます。アメリカとロシアは、地図では太平洋をはさんでいるように見えますが、地球儀で見ると、北極海をはさんでいることがわかります。



max dallocco/Shutterstock.com



各国を色分けした世界地図。地政学を学ぶときは、いつも世界地図を見るとよい。

国と国の関係

それぞれの国の特徴がさまざまであるように、国と国の関係もさまざまです。日本はほかの国と陸地で接していませんが、多くの国は、他の国と国境をはさんでとなり合っています。歴史的に見ても、となりの国が国境をこえて攻めてきて、領土を支配したり、財産や資源をうばっていったりすることは、よくありました。そのため、となりの国からの攻撃に備えて防衛を固めたり、攻撃される前に攻撃したりすることもめずらしくありませんでした。

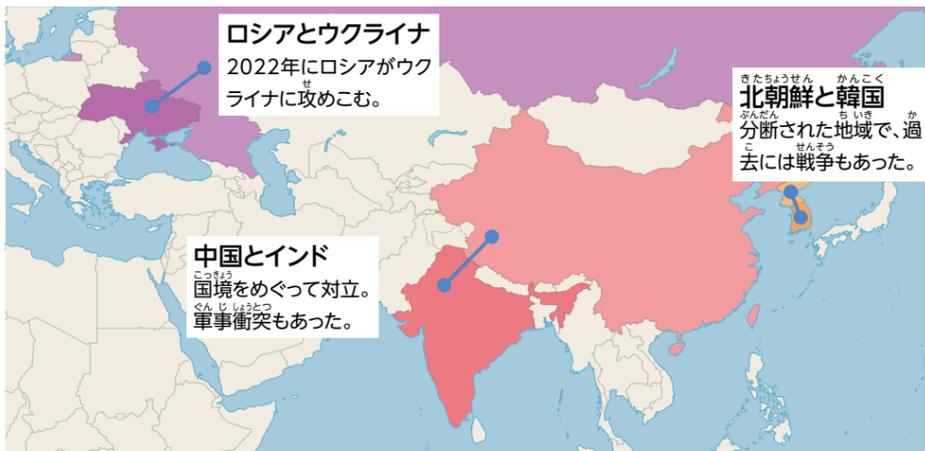
現代の国同士の関係でも、ロシアがウクライナに攻めこんだように、となり合う国が戦争になったり、戦争にはならないまでも、対立することはよくあります。となり合う国は、さまざまな分野で関係が深いだけに、敵対する関係にもなりやすいのです。仮に、となりの国を敵とみなした場合、その国と敵対関係にある別の国を味方にするのは自国に有利です。「敵の敵は味方」という考え方から、関係する国の「敵」とは積極的に仲よくすることが多いのです。

となり合う国の対立

現在の国際関係でも、となり合う国同士が対立する例がたくさんあります。



領土や資源をめぐる争い、宗教のちがいなど、さまざまな原因で、となり合う国同士が敵対している例。

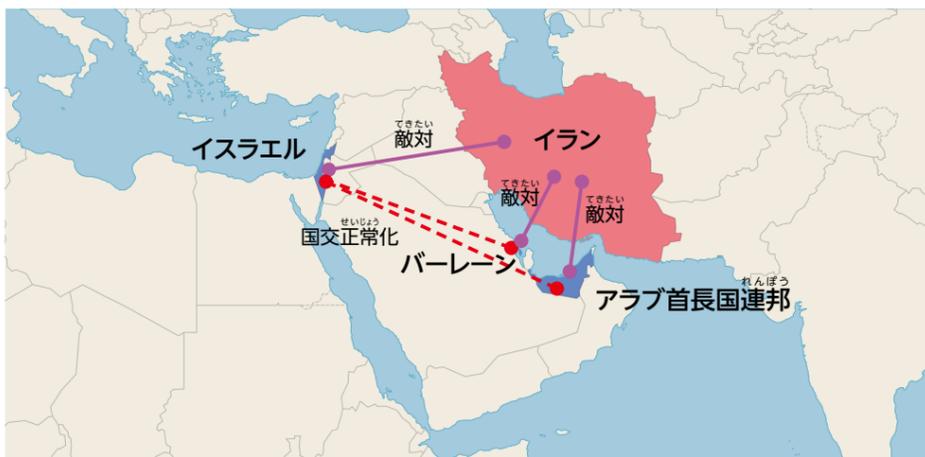


敵の敵は味方

敵の敵である国とは、対立関係から友好関係に変わることがあります。

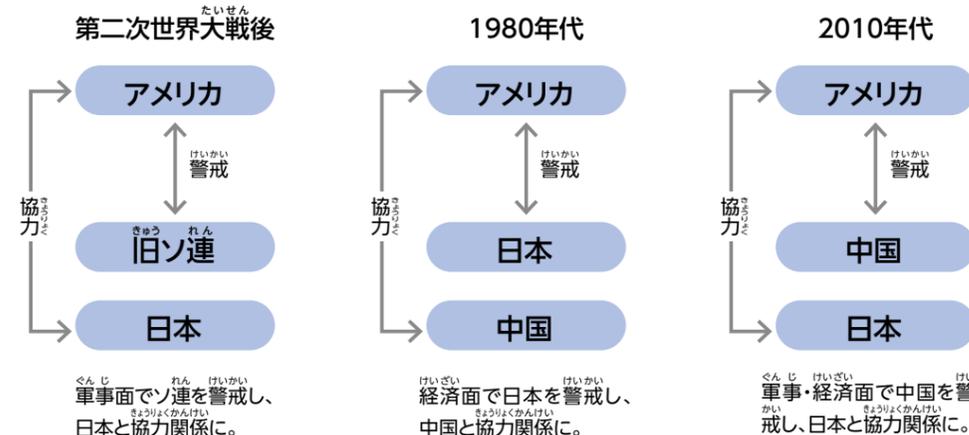
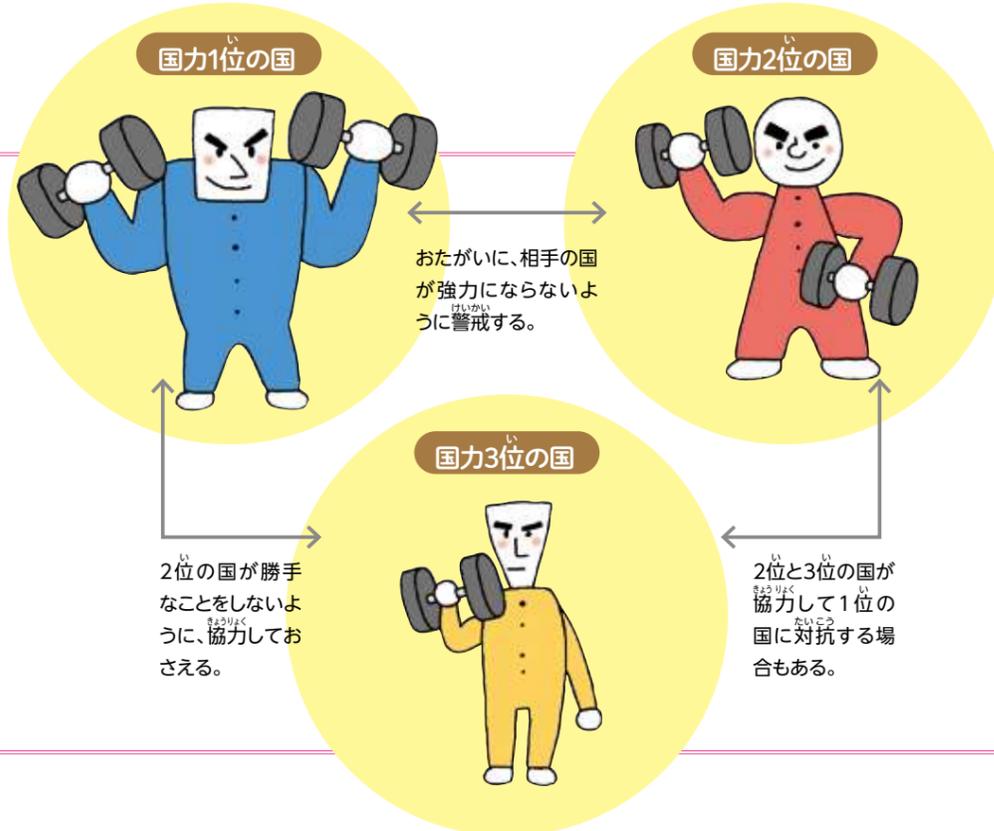


中東ではイスラエルとアラブ諸国の間に対立がある。しかし、イランという、周りの国から敵とみなされている国があることで関係がよくなっている。バーレーン、アラブ首長国連邦は、2020年にイスラエルと国交を結んだ。



バランス・オブ・パワー

国と国の勢力を同じくらいに保つことで、おたがいに自分の国の安全がおびやかされる要因をなくそうとします。



国と国との複雑な関係の中で、自分の国がよその国に攻められず、生き残っていくためには、極端に強い国が現れないように気をつけようとする考え方があります。これを「バランス・オブ・パワー」といいます。日本語にすると「力の均衡」ということです。

例えば、国力が1位、2位、3位の国がある場合、1位の国と2位の国が協力して3位の国に攻めこむようなことになれば、3位の国が生き残ることは難しいでしょう。1位

の国にとっても、2位と3位の国が手を組んだら、自国の安全がおびやかされることになるかもしれません。このような場合、1位の国は3位の国と協力して、2位の国が自国より強力にならないような戦略をとることが多いのです。これは、3位の国にとっても有利な戦略です。

実際の国際関係はこのように単純ではありませんが、どの国も「バランス・オブ・パワー」が重要だと考えています。歴史的に見ても、国際関係は「バランス・オブ・パワー」をめぐる動いてきたといえます。

ランドパワーとシーパワー



地政学では、国々をランドパワーの国とシーパワーの国に分けて考えます。

ランドパワーの「ランド」とは「陸地」のことで、大陸の内陸にあるか、海に面していてもじゅうぶんに活用できない国をさします。ロシアや中国、ヨーロッパのフランスやドイツなどがその代表です。一方のシーパワーの「シー」は「海」のことで、国土が海に囲まれているか、多くが海に面している国をさします。アメリカや日本、イギリスなどが代表です。

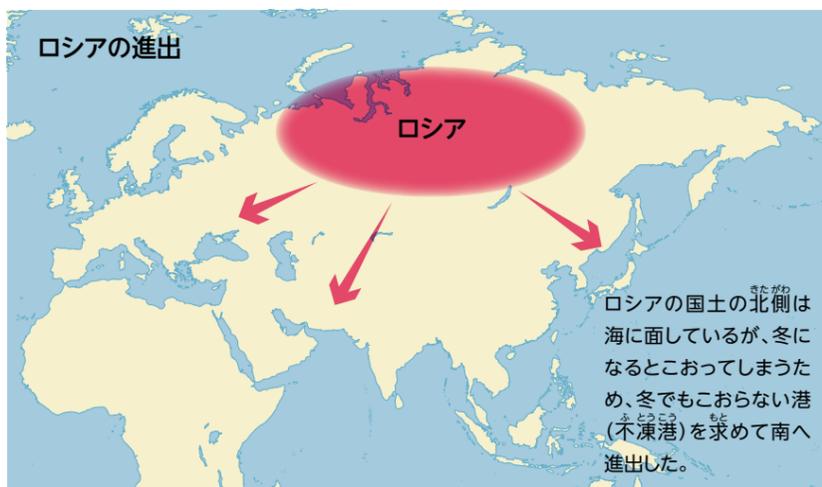
ランドパワーの国は、陸上での戦いに備えて陸軍を充実させることに力を注ぎ、道路や鉄道での輸送能力に優

れています。片やシーパワーの国は、海上での戦いに備え海軍に力を注ぎ、船による輸送能力にたけています。

歴史の流れを見ると、ランドパワーの国とシーパワーの国が交互に勢力を強くしてきました。10～15世紀は、陸上交通が中心で、ランドパワーが優勢でした。15世紀末ごろから大航海時代が始まると、シーパワーのスペインやポルトガル、オランダ、イギリスが優勢になりました。しかし、19世紀から鉄道交通が発達したことで、ロシアやドイツといったランドパワーが勢力をのばしました。20世紀後半からは、経済力を高めたアメリカや日本といったシーパワーの国が優位になりました。

ランドパワー

内陸の国で、海に向かって進出しようとする傾向があります。



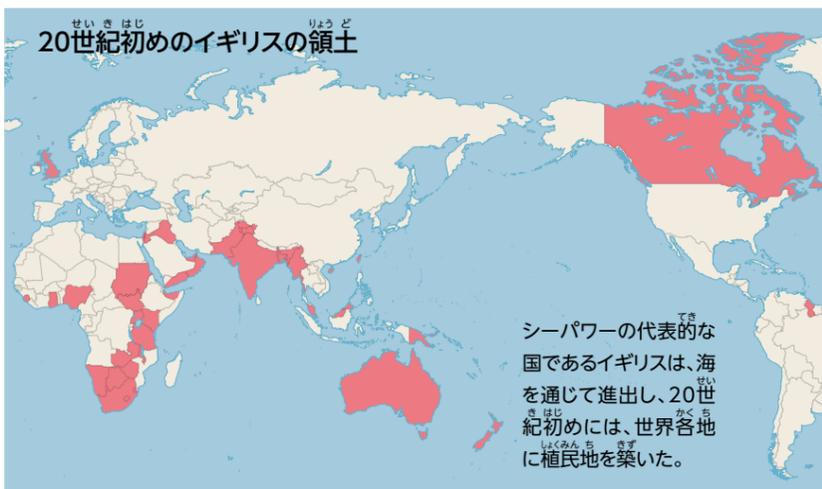
ロシアの進出

ロシア

ロシアの国土の北側は海に面しているが、冬になるとこおってしまうため、冬でもこおらない港(不凍港)を求めて南へ進出した。

シーパワー

国土の多くが海に面している国。海の交通が発達し、各地との交易がさかんです。



20世紀初めのイギリスの領土

シーパワーの代表的な国であるイギリスは、海を通じて進出し、20世紀初めには、世界各地に植民地を築いた。

ハートランドとリムランド

ハートランドからリムランドに進出しようとしたことから、多くの国際紛争がリムランドで起こりました。



ハートランド

ユーラシア大陸の中央部。寒冷で雨が少なく、平地が多い。人口が少なく、文明は発達しなかった。

イラク戦争(2003年)

アフガニスタン戦争(2001年)

朝鮮戦争(1950～1953年)

リムランド

ハートランドを取り巻く、海岸線に沿った地域。温暖で雨が多い。人口が多く、古くから文明が発達した。大都市がたくさんある。

ベトナム戦争(1965年ごろ～1975年)

近年も、リムランドで紛争が起こったよ。



ランドパワーとシーパワーとは別に、地球上の領域の特徴をもとにして言い表す言葉があります。

アジアとヨーロッパを合わせたユーラシア大陸の中央部は、ハートランドと呼ばれます。「ハート」は「心臓」のことで、ユーラシア大陸の地理的な中心であることからこのように呼ばれます。現在は、そのほとんどがロシアの国土になっています。ハートランドは雨が少なく、

土地が豊かではありません。そのため、人口が少なく文明はあまり発達しませんでした。

一方、ユーラシア大陸のふちで、海に面した地域はリムランドと呼ばれます。「リム」は「ふち」という意味です。リムランドは雨が多く、豊かな土地が多いことから、人口が多く、経済が発展していました。ハートランドにある国が、豊かなリムランドへの進出をめざしたことから、これまで何も国際紛争が起こってきませんでした。

現代のアメリカ

アメリカは、世界一の超大国として、各地でのバランス・オブ・パワー（→7ページ）が保たれるような戦略をとっています。自国をおびやかすような国が現れたら、他国と協力してその力をおさえる戦略です。

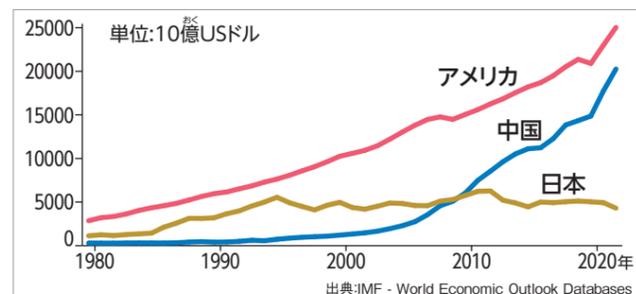
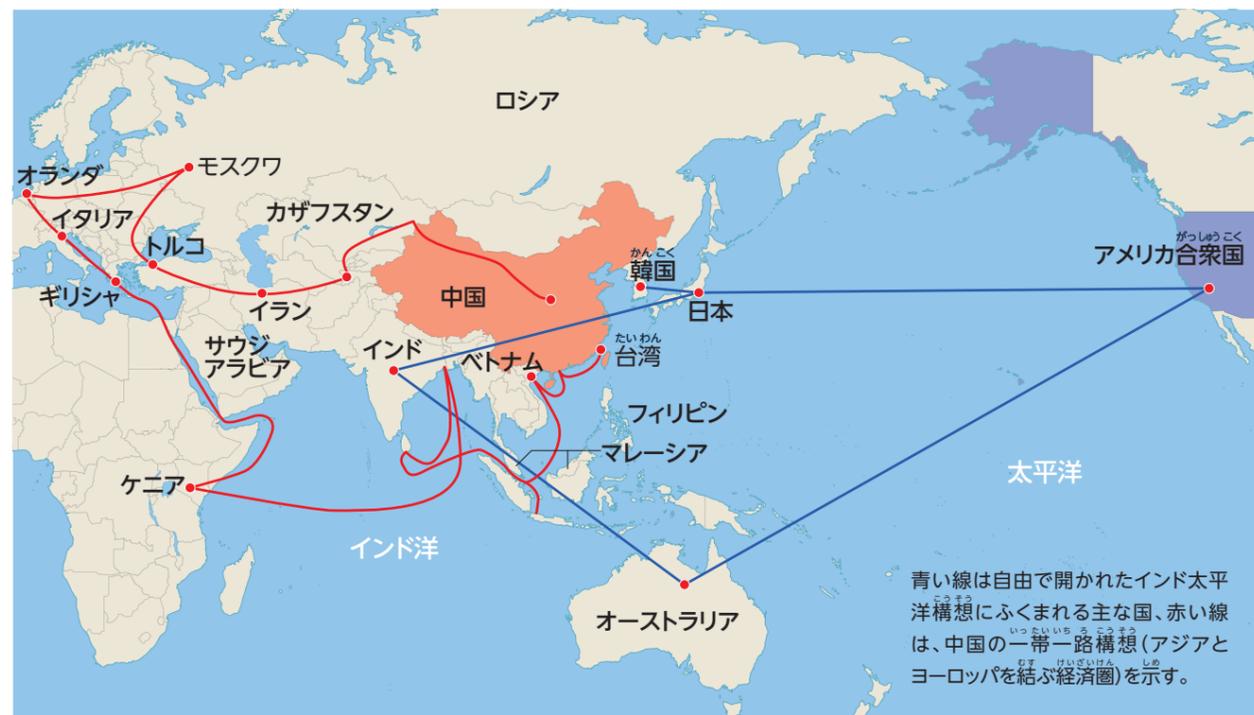
1990年代から急激な経済発展をとげてきた中国は、アジア地域でアメリカをおびやかす存在になっています。ランドパワーの国である中国は、アメリカに次ぐ経済大国で

あり、貿易をめぐってもアメリカと対立しています。また、中国は海をおさえてシーパワーの国になることもめざしており、インド洋や太平洋へも進出しつつあります。

そこで、アメリカは、日本、オーストラリア、インドといったシーパワーの国々と協力して、「自由で開かれたインド太平洋構想」を進め、太平洋やインド洋での貿易ルートや国際法を守り、中国の進出をおさえこもうとしています。

自由で開かれたインド太平洋構想

中国による、アジアとヨーロッパを結ぶ陸上ルートと海上ルートを活用して貿易をさらに盛んにしようとする戦略（「第一路構想」）に対抗するものです。



アメリカ、中国、日本の名目GDP (国内総生産)
中国の経済は急速に発展している。2010年にGDP (国内総生産) で日本をぬいて世界第2位になった。いずれアメリカをぬいて世界一になると予想されている。

アメリカのイラン包囲戦略

イランの周辺にアメリカ軍を置き、イランを包囲しています。下の数字は、各国のアメリカ軍の人数を表します。



イランは、母国語としてペルシャ語が使われていることから、アラビア語が使われるアラブ諸国にはふくまれない。また、イスラム教の国だが、少数派のシーア派で、サウジアラビアなど、多数派のスンニ派の国とは対立している。

次は
ハートランドの
ロシアを調べよう。

緊張のホルムズ海峡

イランの南のホルムズ海峡は、重要なチョークポイント（→11ページ）です。イランと、アメリカやサウジアラビアなどとの対立が強まると、ここを通るタンカーが攻撃されたり、海峡の通行ができなくなったりすることがあります。2019年には、日本と台湾のタンカーが何者かに攻撃されています。国際的な緊張が、私たちの暮らしに関わっているのです。



ホルムズ海峡で攻撃され、けむりを上げるタンカー。



中東は、イスラエルとアラブ国家の対立を軸として、さまざまな紛争が起こっている地域です。また、石油が多く出ることからエネルギーの点でも重要です。

中東の国の中で、アメリカと最も仲が悪いのはイランです。イランでは、1979年に革命が起こり、アメリカ寄りだった国王の政権がたおれました。2002年には、それまで核兵器を持っていなかったイランが、核兵器を開発

していることがわかりました。2015年にイランは核兵器開発を縮小することに合意しましたが、その後もアメリカとの仲は悪いままで。

アメリカは、イランの周辺国でアメリカと仲のよいサウジアラビアなどと協力し、そのほかの国にも軍を置くなど、イランを封じこめようとしています。産油国イランとアメリカとの間で紛争が起これば、中東から石油を輸入している日本にも大きな影響がおよぶでしょう。

ロシアのウクライナ侵攻



世界最大の領土をほこるロシアは、ユーラシア大陸の中央部に位置する代表的なランドパワーの国です。

2022年2月24日、ロシアは、おとなりの国であるウクライナに攻めこみ、世界をゆるがせる大変な事態になりました。ロシアは、軍隊を送り、ミサイルを打ちこむなどして、ウクライナの町を破壊し、多くの犠牲者を出しました。

ロシアは、一時はウクライナの首都キーウの近くまで攻めこみました。その後、ウクライナの東部と南部を占領し、ロシアの領土に組み入れると宣言しました。

ウクライナ政府は、ロシアの侵攻に対して反発し、徹底的に戦う姿勢を見せています。また、日本をふくむ国際社会の多くの国々は、ロシアの侵攻を非難し、ウクライナを支援することを表明しています。

ロシアとウクライナの位置

ロシアは、ユーラシア大陸に広い領土を持つ国です。面積は世界一で、日本の約45倍です。ウクライナは、ロシアの南西に接する国で、面積は日本の約1.6倍です。ウクライナは、他のヨーロッパの国々と接しており、南には黒海が広がります。



ロシアとウクライナの歴史的な関係

ロシアとウクライナは、同じ国になったり、別の国になったりしてきました。

年代	できごと
9世紀	現在のウクライナにキエフ公国ができる。
1240年	モンゴル軍がキエフ公国に攻め入り、キエフ公国が滅亡する。
14～16世紀	ウクライナがポーランドやリトアニアの領土になる。
17～19世紀	ウクライナがロシアの領土になる。
1922年	ソビエト社会主義共和国連邦ができる。ウクライナ社会主義共和国が、ソ連の一員になる。
1991年	ソビエト社会主義共和国連邦が解体し、ウクライナが独立する。
2014年	ウクライナで、アメリカなどに親近感を持つ政権が誕生する。 ロシアがクリミア半島を領土にする。
2022年	ロシアがウクライナに侵攻する。



戦車でウクライナに攻めこむロシア軍。



破壊されたウクライナの町。



ロシアとウクライナには、共通する文化が多く、経済的にも強い結びつきがありました。ウクライナの公用語はウクライナ語ですが、ロシア語を話せる人もたくさんいます。東部や南部の地域にはロシア系の人も多く暮らし、ロシアに親近感を持つ人もいます。

歴史的には1917年にロシア革命が起こり、1922年にソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）ができると、ロシアもウクライナもその一員となりました。その後、1991年に

ソ連が解体すると、ウクライナは独立国になりました。

2014年、ウクライナに、アメリカやヨーロッパの国々と仲よくしていこうとする政権ができると、ロシアはウクライナ南部のクリミア半島を一時的にロシアの領土に組み入れました。

2022年のロシアのウクライナへの侵攻は、ロシアの過去の戦略や、国際関係の移り変わりに関係があります。次に、地政学をふまえたロシアの歴史をさかのぼって見ていくことにしましょう。

戦争って、どんなこと？

 この巻ではこれまで、「国と国は対立することがある」、「どの国も自国の安全を第一に考え、他国に攻められないようにしている」といったことについて見てきました。

ここからは、戦争とはいったい何か、どのような原因で戦争が起こるのかなどについて、くわしく考えていくことにしましょう。

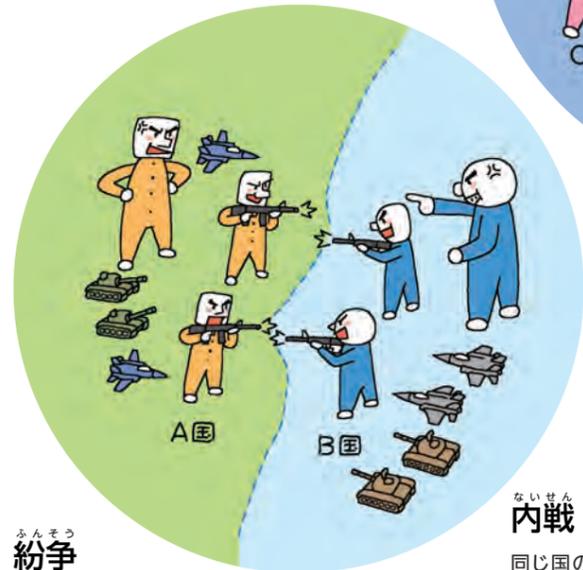
初めに、「戦争」とはどのようなことをさすのでしょうか。辞書には、「国と国が武力を用いて戦うこと」とい

た説明があります。「武力」とは、軍隊のほか、戦車や爆弾などの兵器のことです。人に置きかえると、争いを解決するために、暴力や兵器を使って相手にいうことを聞かせようとするのが戦争に当たります。

戦争と似た言葉に、「紛争」と「内戦」があります。どちらも戦いを表しますが、紛争は、戦争より小規模なもの、地域に限られているもの、国同士ではないものなどをさします。一方、「内戦」は、同じ国の中での武力による戦いをさします。

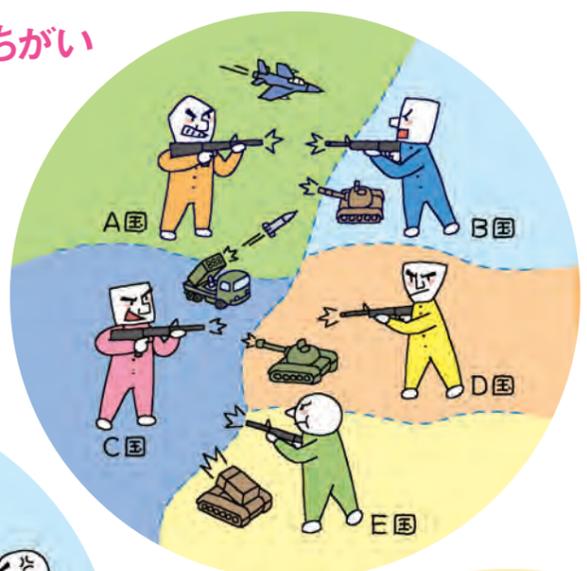
「戦争」「紛争」「内戦」のちがい

「戦争」「紛争」「内戦」は、どれも戦いのことですが、意味合いがちがいます。ただし、はっきり区別がしにくいこともあります。



紛争

戦争ほど大規模ではない戦い。国と国が国境線をめぐって対立し、軍隊同士の戦いに発展するなど、武力は使わない対立や争いをさすこともある。実質的には戦争でも、紛争と呼ぶこともある。



戦争

国と国とが武力を使って戦うこと。1国対1国の場合もあれば、複数の国が関係することもある。第一次世界大戦や第二次世界大戦のように、世界の多くの国を巻きこむ大規模な戦争もあった。



内戦

同じ国の中で、対立する勢力が武力を使って戦うこと。政府とそれに反対する勢力が戦うことなどをさす。内戦をする勢力に他国が力を貸すこともある。

戦時国際法とは？



攻撃してよいのは
戦闘員と軍事施設だけ

降伏した兵士や民間人などを攻撃してはいけない。病院や学校、歴史的な建物、発電所など、軍事に関係のない施設も攻撃してはいけない。



相手の信頼を裏切る目的の
行動をしてはいけない

赤十字の印をかかげて相手を攻撃することや相手国の軍隊の服を着たり、相手国の国旗をかかげたりして攻撃することなどは禁止。



戦争に加わっていない国は
中立の立場を保つ

戦争をしていない国(中立国)は、どちらかの国を助けてはいけない。自国の領土をどちらかの国の軍隊に使わせてはいけない。



Cynet Photo

ルールを守らない
国は処罰
されるよ。



太平洋戦争では、アメリカ軍は、日本に対して無差別に空襲を行った。これは本来、戦争のルールに反する行いだった。



国と国との戦いである戦争にもルールがあります。大昔の戦争は、どのような手段を使ってでも相手を打ち負かせばよいとしましたが、近代になると、たとえ戦争であってもルールを決めて、悲惨な事態になることをさけようとする動きが出てきました。

例えば、戦闘員や軍事施設以外を攻撃してはいけないというルールがあります。民間人や一般の住宅などは

攻撃してはいけないのです。また、捕虜になった人を殺したり苦しめたりしてはいけないというルールもあります。毒ガスなどの化学兵器や細菌などをばらまく生物兵器は使ってはいけません。降伏すると見せかけて攻撃するようなひきょうなふるまいも禁じられています。

このような戦争でのルールは、戦時国際法として取り決められています。ただし、実際の戦争になると、守られないこともあります。